

## 化学物質過敏症体験記

齋藤 育江

東京都健康安全研究センター 環境保健部 環境衛生研究科

〒169-0073 東京都新宿区百人町3-24-1

別になりたくてなった訳ではありませんが、この10年来、化学物質過敏症(CS)とともに生きています。CSと付き合っただけで今日まで、CSになる前には想像もつかなかった不思議なことが、自分の体に起こっています。今日は、会員のページをお借りして、CSの症状や発症の機序、そこから広がって化学物質と人間について、自分なりに感じていることを皆様にお伝えしたいと思います。

・始まりはジンマシン(何か変なもの食べたっけ?)



これがCSなのだ!と最初に気づいたのは、ジンマシンがきっかけでした。ある日を境に、職場にいて午後になると、手足に時々ジンマシンが出るようになりました。数は2~3個、10円玉くらいの大きさで、少し盛り上がった感じのものです。かゆみはあまり強くないし、翌朝には消えているので、それほど心配することも無かったのですが、食事か薬を原因と疑って、食べた食品のメモを取ったりしていました。でも、原因はさっぱりわからず、半年ほどたったある日、実家で農作業小屋に入った2~3時間後、肘をおおうほどの特大ジンマシン出現。小屋には田畑に散布する農薬が無造作に置いてあり、自分が有機リン系農薬に対するCSを発症していることに気づきました。その後、北里研究所病院での診察を経て、自分がCSであることを確認するに至ります。

・バラのいい香り→バラの香り+頭痛(言葉で表現すると「クサイ」となります)

CSになって、それまでと最も変わったのが、においに対する体の反応です。CSになる前は、何かのにおいがすれば、「ああ、これは〇〇

のにおいだ」ということで済んでいたのですが、CS発症後は、においとともには頭痛・めまい・悪心・不整脈といった不快な症状が起こります。自分がこのような感覚をはっきりと自覚するようになったのは、ジンマシンが始まってから約1年後でした。現在は、食品以外のすべてのにおいがこれらの不快症状を起こします。ちなみに、エタノールは強いめまいを伴うので、お酒が全く飲めなくなりました。



・同じ「におい」なのに、なぜキムチは大丈夫?

私には食物のアレルギーは無く、何でも良く食べます。今のところ、食べ物においては不快症状を伴わないので、キムチもクサヤも素直に「おいしそう」と感じる事が出来ます。不思議なことは、食べ物と他の物のおいを、体がどうやって区別しているのか?ということです。同じ「におい」なのに、なぜ食べ物では大丈夫なのでしょう?自分の発症の順序を考えると、遅延型アレルギー(ジンマシン)が最初で、においと同時に起きる中枢神経症状(頭痛・めまい・悪心・不整脈)が後でした。そうしたことを考えると、もしかしたら、曝露によって体がアレルギーを起こす化学物質に対して、防御体制を確立した結果が、においに対する不快症状なのでは?と思っています。不快症状が起これば、そのにおいを避けるよう行動するので、アレルギー原因物質の吸入を減らすことができます。最近のCSに関する研究報告では、におい刺激により脳内の嗅覚神経ネットワークが変化し、不快な症状を引き起こすようになるという説があります。

・化学物質vs人間

最近、気になっているのは、空気中の化学物質や殺虫剤曝露によって子どもの白血病が増えるという報告があることです。食品や飲料水については、無農薬有機栽培やミネラルウォーターといった選択肢があり、摂取する化学物質の量のある程度自分で選択することができます。しかし、今のところ自分が吸う空気を選択することはできません。同じものを食べ続けるとその食品にアレルギーが起こり易いように、同じ「におい」を吸い続けると、その「におい物質」に対してアレルギーが起こっても不思議ではないと思っています。人々は食品や飲料水の安全性について大きな関心を持っていますが、私にとっては「安全な空気」も大きな関心事です。化学物質の曝露経路として空気は忘れられがちですが、特に揮発性を有する化学物質については、空気が大きなウェイトを占めることを広く啓発する必要がありますと考えています。

